

神の家「הַבַּיִת」 (ハッバイト)

1. 御子がかしらである神の家

創世記1章1節は、ヘブライ語の文字が象徴する意味を読み取っていくなら、神の御子がかしらである家が創られる話だと読み取ることができる。



ヘブライ語聖書の最初(創1:1)に出てくる単語はベレーシートだが、その最初の文字(ב:ベート:家)は他の文字より、大きく書かれている。この家が普通

בְּרֵאשִׁית

בְּרֵאשִׁית בָּרָא אֱלֹהִים אֶת הַשָּׁמַיִם וְאֶת הָאָרֶץ
וְהָאָרֶץ הָיְתָה תֵהוֹ וּבְהוֹ וּלְזֶרַח עַל פְּנֵי תְהוֹם וְרוּחַ
אֱלֹהִים מְרֻזָּזֶת עַל פְּנֵי הַמַּיִם וַיֹּאמֶר אֱלֹהִים יְהִי
אוֹר וַיְהִי אוֹר וַיִּרְא אֱלֹהִים אֶת הָאוֹר כִּי טוֹב
וַיַּבְדֵּל אֱלֹהִים בֵּין הָאוֹר וּבֵין הַחֹשֶׁךְ וַיִּקְרָא
אֱלֹהִים לְאוֹר יוֹם וּלְחֹשֶׁךְ לַיְלָה וַיְהִי עֶרֶב
וַיְהִי בֹקֶר יוֹם אֶחָד

の家ではないことを物

語っている。この家は誰によって創られるのか。この家の創造者は誰なのか。もちろん、父がこの家を創られる方である。

創世記1:1 初めに、神が天と地を創造した。

また、同時に御子もこの家を創られる方である。**ヨハネ1:1~3** 初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。この方は、初めに神とともにおられた。すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもない。

ヘブル 11:3 信仰によって、私たちは、この世界が神のことばで造られたことを悟り、したがって、見えるものが目に見えるものからできたのではないことを悟るのです。

おもしろいことに、この地上に来られた御子イエシュアの職業は大工であった。**マタイ13:55** この人は大工の息子ではありませんか。彼の母親はマリヤで、彼の兄弟は、ヤコブ、ヨセフ、シモン、ユダではありませんか。

ところで、イスラエルで大工が扱う材料、家を建てる時の資材というのは主に「石: אֶבֶן」である。もちろん、柱としては「木」も使われた。ヘブライ語で石という意味の単語「אֶבֶן」は父を意味する「אב」と子を意味する「בן」によってできている単語であることが分かる。すなわち、この家は父と子によって創られる家であり、この家のかしらは御子である。

2. 神の家の礎の石 (אֶבֶן)

聖書の中には石の話が度々出てくるが、それらは非常に深い啓示を秘めた預言的なしるしとして深く考察する必要がある。まず、最初に、ヤコブの話から石の話を確認してみよう。

ヤコブは兄のエサウから逃れ、叔父のラバンの家に行く途中、ある所に着き、日も沈んでいたので、一つの石を取り、それを枕にして横になったが、そこで、彼は天が開かれ、神の御使いが上り下りする夢を見た。そして、その場所のベテルと名付けたが、その時ヤコブはその石が神の

家 (בֵּית אֱלֹהִים) になると語っている。

創世記28:15 見よ。わたしはあなたとともにあり、あなたがどこへ行っても、あなたを守り、あなたをこの地に連れ戻そう。わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなたを捨てない。」 **16** ヤコブは眠りからさめて、「まことに【主】がこの所におられるのに、私はそれを知らなかった」と言った。 **17** 彼は恐れおののいて、また言った。「この場所は、なんとおそれおおいことだろう。こここそ神の家にほかならない。ここは天の門だ。」 **18** 翌朝早く、ヤコブは自分が枕にした石を取り、それを**石の柱**として立て、その上に油をそそいだ。 **19** そして、**その場所の名をベテル**と呼んだ。しかし、その町の名は、以前はルズであった。 **20** それからヤコブは誓願を立てて言った。「神が私とともにおられ、私が行くこの旅路を守り、食べるパンと着る着物を賜り、 **21** 無事に**父の家**に帰らせてくださり、こうして【主】が私の神となられるなら、 **22** 石の柱として立てた**この石は神の家**となり、すべてあなたが私に賜る物の十分の一を必ずささげます。」

次に、ヨシヤ率いるイスラエルの民がいよいよヨルダン川を渡り、カナン of 地に入っていくとするとときに、ヨルダン川の真ん中から十二の石を取った。ヨルダン川はイスラエルの代表的な川、流れる水をイスラエルでは生ける水と言うが、ヨルダン川は正にその生ける水を代表する川である。だから、バプテスマのヨハネはヨルダン川で洗礼を受けていた。イエシヤもヨルダン川で洗礼を受けられた。また、生ける水とは他でもない私たちの主、イエシヤ・ハマシヤフ (יֵשׁוּעַ הַמָּשִׁיחַ) が生ける水 (מַיִם חַיִּים) である。イエシヤの中から取りだした石が神の家となる石である。

ヨシヤ記4:1~7 民がすべてヨルダン川を渡り終わったとき、【主】はヨシヤに告げて仰せられた。「民の中から十二人、部族ごとにひとりずつを選び出し、彼らに命じて言え。『**ヨルダン川の真ん中で、祭司たちの足が堅く立ったその所から十二の石を取り**、それを持って来て、あなたがたが今夜泊まる宿営地にそれを据えよ。』」そこで、ヨシヤはイスラエルの人々の中から、部族ごとにひとりずつ、あらかじめ用意しておいた十二人の者を召し出した。ヨシヤは彼らに言った。「ヨルダン川の真ん中の、あなたがたの神、【主】の箱の前に渡って行って、イスラエルの子らの部族の数に合うように、各自、石一つずつを背負って来なさい。それがあなたがたの間で、しるしとなるためである。後になって、あなたがたの子どもたちが、『これらの石はあなたがたにとってどういうものなのですか』と聞いたなら、あなたがたは彼らに言わなければならない。『ヨルダン川の水は、【主】の契約の箱の前でせきとめられた。箱がヨルダン川を渡るとき、ヨルダン川の水がせきとめられた。これらの石は永久にイスラエル人の記念なのだ。』」

また、ダビデが巨人ゴリヤテを倒したのは彼が川から取ってきた五つのなめらかな石「אֲבָנִים」である。この五つの石は、神の教え「トラー：**תּוֹרָה**」、また、イエシヤのことばである「四福音書と黙示録」を意味するということもできる。

Iサムエル17:40 自分の杖を手に取り、**川から五つのなめらかな石を選んできて**、それを羊飼いの使う袋、投石袋に入れ、石投げを手にして、あのペリシテ人に近づいた。このなめらかな石は、川の流れることによって磨かれ、削られてなめらかになった石であるが、この流れる川は先程も言ったように、生ける水 (מַיִם חַיִּים)、すなわち、イエシヤ (神のみことば) である、この五つの石は、神の教え、イエシヤのことば、真理によって、完全に磨かれ、削られた者たちを象徴するものでもある。

それから、ダニエルが見た幻からも石についての話が出てくるが、これも今まで語ってきた石「**אֶבֶן**」の話に繋がるものである。**ダニエル2:31** 王さま。あなたは一つの大きな像をご覧になりました。見よ。その像は巨大で、その輝きは常ならず、それがあなたの前に立っていました。その姿は恐ろしいものでした。**32** その像は、頭は純金、胸と両腕とは銀、腹とももとは青銅、**33** すねは鉄、足は一部が鉄、一部が粘土でした。**34** あなたが見ておられるうちに、**一つの石**が人手によらずに切り出され、その像の鉄と粘土の足を打ち、これを打ち砕きました。ここに出てくる大きな像の各部分はそれぞれ、バビロン、ペルシャ、ギリシャ、ローマを現すが、34節を見ると一つの石が人手によらずに切り出され、その像を打ち砕くと書かれている。この像は獣の構造、システムであり、この獣を打ち砕くのが、人手によらず切り出された石「**אֶבֶן**」、すなわち、神の教え、神のみことば、真理、イエシュアである。**ダニエル2:44** この王たちの時代に、天の神は一つの国を起こされます。その国は永遠に滅ぼされることがなく、その国は他の民に渡されず、かえってこれらの国々をことごとく打ち砕いて、絶滅してしまいます。しかし、この国は永遠に立ち続けます。人手によらず切り出された一つの石が一つの国、永遠に滅ぼされない神の国、メシアの王国である。神の家（神の国、メシア王国）はこの一つの石「**אֶבֶן**」によって建てられる。

ペテロもまた、石について語っている。ペテロはイエシュア・ハマシアフ (**יְשׁוּעַ הַמַּשִּׁיחַ**) 神の御子が石「**אֶבֶן**」、神の家の礎の石であると語っている。**1ペテロ2:4** 主のもとに来なさい。主は、人に捨てられたが、神の目には、選ばれた、尊い、**生ける石(אֶבֶן חַיָּה)**です。**5 あなたがたも生ける石として、霊の家(בַּיִת רוּחָנִי)**に築き上げられなさい。そして、聖なる祭司として、イエス・キリストを通して、神に喜ばれる霊のいけにえをささげなさい。**6** なぜなら、聖書にこうあるからです。「見よ。わたしはシオンに、**選ばれた石、尊い礎石**を置く。彼に信頼する者は、決して失望させられることがない。」**7** したがって、より頼んでいるあなたがたには尊いものですが、より頼んでいない人々にとっては、「家を建てる者たちが捨てた石、それが礎の石となった」のであって、**8**「**つまずきの石、妨げの岩**」なのです。彼らがつまずくのは、みことばに従わないからですが、またそうなるように定められていたのです。**9** しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。そして、5節にあるように私たちも生ける石として、霊の家（神の家、神の国）に築き上げられるために王である祭司として選び出された者たちであることをペテロは語っている。私たちもイエシュアによって、生ける石とされ、神の家はこの石によって、築き上げられるものである。

先週（2月13日～19日）のトラーナーションは「出25章～27章19節までである。ここには、神の幕屋と器具の造り方についての神の指示が書かれている。そして、出25章8には次のように書かれている。**出25:8** **彼らがわたしのために聖所を造るなら、わたしは彼らの中に住む**。神様は神の家、イエシュアという礎の石とそれに連なり生ける石と変えられた私たちの中に住まわれることを願っておられることが分かる。そして、時満ちて、生けるみことば (**הַתּוֹרָה**) である神の御子が人となって来られ、私たちの間に幕屋を張った。神の家そのものである方が私たちのところに来られたのであるが、これは革命的な出来事と言わざるを得ない。人となったイエシュアご自身が神殿 (**בְּיָת**) だからである。

ヨハネ1:14 ことばは人となって私たちの間に住まれた。**וְשָׁכַן בְּתוֹכֵנוּ**
ヨハネ2:21 しかし、イエスはご自分のからだの神殿のことを言われたのである。

このイエシュア・ハマシアフ (יֵשׁוּעַ הַמְּשִׁיחַ)、神の御子が生ける聖所として来られたが、このイエシュアはヨセフの子、大工であったと、聖書に記されている。

聖書は最初から最後まで、家（神の家）を造っていく話である。イエシュアが大工の子として、来られたことには、預言的な深い啓示がある。**ヘブル1:1~3** 神は、むかし父祖たちに、預言者たちを通して、多くの部分に分け、また、いろいろな方法で語られましたが、この終わりの時には、御子によって、私たちに語られました。神は、御子を万物の相続者とし、**また御子によって世界を造られました**。御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現れであり、その力あるみことばによって万物を保っておられます。また、罪のきよめを成し遂げて、すぐれて高い所の大能者の右の座に着かれました。

3. 組み立てる者 (יָמֵן アーモン：匠、建築家、熟練工) であるイエシュア

箴言8:22~30【主】は、その働きを始める前から、そのみわざの初めから、わたしを得ておられた。大昔から、初めから、大地の始まりから、わたしは立てられた。深淵もまだなく、水のみなきる源もなかったとき、わたしはすでに生まれていた。山が立てられる前に、丘より先に、わたしはすでに生まれていた。神がまだ地も野原も、この世の最初のちりも造られなかったときに。神が天を堅く立て、深淵の面に円を描かれたとき、わたしはそこにいた。神が上のほうに大空を固め、深淵の源を堅く定め、海にその境界を置き、水がその境を越えないようにし、地の基を定められたとき、**30** わたしは神のかたわらで、これを**組み立てる者**であった。

箴言は「חָכְמָה (ホフマー：知恵)」という言葉がキーワードであり、箴言だけで、38回もこの言葉が出てくる。8章においても「知恵」について語られる中で上記の箇所が出てくる。知恵「חָכְמָה (ホフマー)」とは何を意味するのか。聖書で知恵という言葉は「תּוֹרָה (トローラー)」を意味する言葉であることを神を恐れるユダヤ人は誰もが知っている。(申命記4:6) 箴言8章では、この知恵が神のかたわらで、すべて造られたものを「**組み立てた**」と書かれている。この知恵は、神の教え(トローラー)を指し示す象徴的な言葉である。箴言8章では知恵という言葉が擬人化されている。神の教え(トローラー)は、イエシュア(הַתּוֹרָה)である。

知恵、「חָכְמָה」は、神のことば、「הַתּוֹרָה」であり、神のことば、「הַתּוֹרָה」が人となって来られた方が、イエシュアである。**ヨハネ1:14** ことばは人となって、私たちの間に住まれた。それで、初代教会の使徒たち、弟子たちはイエシュアのことを「הַתּוֹרָה (ハトローラー)」と呼んでいた。

さて、箴言8章30節に出てくる「**組み立てる者**」という言葉は יָמֵן (アーモン：匠、建築家、熟練工) で יָמֵן (アーマン：忠実である、確実である、信じる) がその語根であるが、この、יָמֵן (アーマン) という言葉はイエシュアの名前であることが黙示録から分かる。

黙示録 3:14 また、ラオデキヤにある教会の御使いに書き送れ。『**アーメン(יָמֵן)である方、忠実(יָמֵן)で、真実(יָמֵן)な証人**、神に造られたものの根源である方がこう言われる。

ハバクク2:4見よ。彼の心はうぬぼれていて、まっすぐでない。しかし、正しい人はそのיָמֵןによって生きる。יָמֵן エムナー(信仰と訳されている)は、「誠実、忠実、真実」という意味のヘブライ語であり、יָמֵןの語根もיָמֵן (アーマン) である。「正しい人はיָמֵןによって生きる。」

א (神の) מ (真理、みことば) י (実在化する、人となる) י (忠実さ、魚) ה (神を見る)

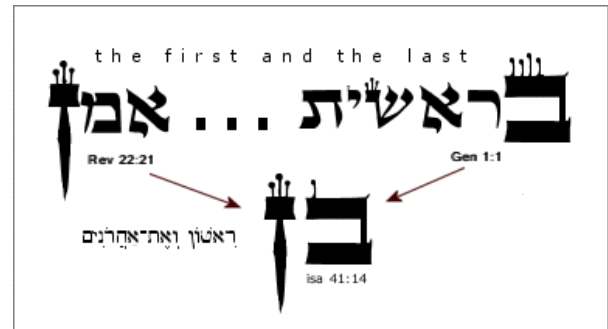


※神の真理、神のみことばが人となり実在化する。神に対して忠実なこの人を通して私たちは神を見る。それが、הַאֱמוּנָה人となった神のみことばイエシュアである。そして、この方が私たちに神（父）を見せてくださるのである。ヨハネ14:9 イエスは彼に言われた。「ピリポ。こんなに長い間あなたがたといっしょにいるのに、あなたはわたしを知らなかったのですか。わたしを見た者は、父を見たのです。どうしてあなたは、『私たちに父を見せてください』と言うのですか。ハバクク2章4節は、「正しい人はイエシュア (הַאֱמוּנָה) によって生きる。」と書かれている。

使徒パウロもこのことについて、次のように語っている。ガラテヤ2:20 私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が肉にあって生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。

イエシュアが「知恵 : הַחֵמָה」であり、イエシュアが「神のことば : הַתּוֹרָה」であり、イエシュアが「創造者、組み立てる者 : אֱמוּן」であることが分かる。神の家「הַבַּיִת」は、イエシュアによって、造られ、イエシュアがそのかしらであられる家である。箴言9:1 知恵は自分の家を建て、七つの柱を据え、(הַצְּבָה עַמּוּדֵיהָ שֶׁבְּעָה;) 箴言24:3 家は知恵によって建てられ、英知によって堅くされる。

聖書全体は、神の御子がかしらである家が父と子によって、創られていく話であり、בְּרֵאשִׁית で始まり、אֱמוּן で終わっている。



2016.2.22
金 聖圭